

# 2019年度 事業報告

社会福祉法人 かたるべ会

## はじめに

2019年度は、30周年事業の一環として、信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取組を柱に事業展開をしてきました。

### （1） 個別支援面談を深め、将来展望を明らかにする取り組み

個別支援面談を深めることで、社員、入居者、そしてご家族の人生を深く振り返り、多くの方が、人々の無理解と偏見に悩んでこられたことを知りました。今後、相互理解と信頼関係を深めるためには、自分たちから進んで地域社会に働きかける必要があることが明らかになりました。

### （2） 社員、入居者、ご家族、職員で宿泊研修

千葉県勝浦のホテル三日月にて、社員、入居者、ご家族、職員、総勢300名で宿泊研修を行いました。少人数でのグループワークを行い、各自の人生を語り合い、喜びや苦しみを共有し、今後の展望についても意見交換を行いました。各自の課題は様々ですが、障碍に対する理解と、信頼関係の持てる社会にするためには、各自が積極的に発信することを確認しました。また、夫婦間での信頼関係も話題となり、おやじの会の必要性が課題となりました。

### （3） 30周年記念パーティーで、関係機関の方々と信頼関係を深める

横浜ベイホテル東急にて、社員、入居者、ご家族、職員、取引先企業、地域の方々、学校関係の方々など、総勢500名で30周年記念パーティーを行いました。かたるべ会30年の歴史を振り返り、今後の方向性を確認するとともに、各自一人一人の存在意義を深め、地域の方たちや関係機関の皆様と、より一層の信頼関係を確認する会となりました。

### （4） 「支援のあり方」に関する職員研修の徹底

かたるべ会の重要な役割である「個別支援のあり方」について、7名での小グループでの研修を徹底的に行いました。本人やご家族の「生きづらさ」を明らかにし、生きづらさに対して、どのような支援が必要なのか、参加者全員が発信し、全員で検討する研修を行うことで、実際の個別支援につなげることができました。

3月にはコロナウイルスが蔓延し、個別支援面談も自粛する状況が続いていますが、コロナウイルス騒動が落ち着きましたら、徹底的な個別支援面談を中心に活動してゆきたいと考えています。

## 授産施設 GH利用状況報告

- ・2019年度 授産施設は4月に新入社員4名を向かえ、第1かたるべ社が13名、第2かたるべ社が36名、第3かたるべ社が18名、ジャスミンが23名 うれしのが35名 合計125名でスタートしました。うれしの放課後等デイサービスは19名でスタートしました。年度内に就労された方が2名おります かたるべに中途入社された方が3名、就労された方が戻ってきたのが2名 退所された方が3名おりました

3月末の時点で第1かたるべ社が14名、第2かたるべ社が35名、第3かたるべ社が1

9名、ジャスミン24名、うれしのが34名の在籍となって合計で126名の社員になります。

- ・グループホームは4月の時点でハイツマモルエリアが33名 セルフィッシュエリアが32名 ジャスパーエリアが17名でスタートしました 3月に新設グループホームピットを開所し、ハイツマモルエリアに加わり4月から全体で4名増えます  
(利用状況 別紙-1)

## 2019年度 第1かたるべ社 事業報告

- 社員、入居者の人生を振り返り、将来展望（支援計画）を深める。
  - ・個別支援面談で各自の人生を深く振り返る  
本人との面談のなかで丁寧に聞いていく  
→各自の人生を振り返るため、一人ひとりのご家族と面談を実施した。
  - ・「個別支援計画」を深める  
過去から現在を確認してから、未来への展望を個々にあった形で描いていく  
個々の状況に応じた 環境や支援の対応を丁寧に行っていく  
→背景を知ることにより、一人ひとりの理解が深まった。
  - ・本人、ご家族、職員との信頼関係を深める  
社員と職員、社員とご家族、ご家族と職員などで向き合う機会を増やし  
相互理解と信頼関係を深める 自宅訪問、入所先訪問の実施  
→信頼関係を深めるためにご家庭訪問を実施した方もいた。  
→家族面談や訪問をきっかけに連絡を取る機会が増えた方もいた。
  - ・社員、ご家族、職員で宿泊研修を行い、将来展望を深める  
9月28日・29日 30周年宿泊研修実施
- 信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取組
  - ・町内会、取引先、関係機関との信頼関係（相互理解）を深める  
地域の自治会活動に関わり、イベントやお手伝いにも積極的に参加する。  
鴨居自治会のイベント 町内会との信頼関係（相互理解）  
→鴨居小学校盆踊り大会、鶴見川花火大会への出店、募金活動への参加をした。  
→自治会の班長を継続し、関わりが深まり、興味を持ってくれる方もいた。
  - ・職員のお子さんが所属する地域の自治会、子供会、幼稚園の保護者会、PTAなど、様々な活動に積極的に関わり、相互理解を深める。  
都筑区茅ヶ崎中学校のPTAの活動に積極的に関わり、相互理解を深める。  
近隣の学校への福祉活動、職業体験を提案する  
→マンションでチラシ配布を継続して行った。

→茅ヶ崎中学校ふれあい祭りに参加した。

- ・30周年記念パーティーを行い、関係機関との信頼関係（相互理解）を深める  
→鴨居第一地区自治会の方がご出席して下さった。

○ 充実した社会生活に向けた取組

仕事 全員「社会的労働」に向け活動（基本理念）

・受注作業

ヤマガタグラビヤ、富士紙器、大東、フレーベル、システム物流、大川印刷  
エムズクリエーション等の軽加工作業

社員一人ひとりが適材適所の労働に参加できるように支援する。

→新規取引先があり、受注する仕事の種類が増えた。

（富士製作所、キュアテックス、歴史博物館他）

・受託作業

旭区、緑区の公園清掃作業 地域との信頼関係（相互理解）

鴨居自治会の回覧セッティング作業 町内会との信頼関係（相互理解）

→新規 青葉台清掃作業に取り組んだ。

・自主製品作り 販売活動

アロマ石鹸、小物入れ等

第1かたるべ社前、各種催事イベント

かたるべ製品販売、野菜販売

→日々の販売活動、新商品としてプラスチック粘土によるアクセサリ製作。

→大日本プロレスとのコラボ商品を製作、イベント等で共同販売した。

・社員個々が求める職業と一緒に模索し、その実現への準備を考え行動に移す。

就労に向けてのボランティア活動

職域開拓を意識した活動（演劇や絵画、イラスト）

→高齢者施設（かないばら苑、さくらの郷）のボランティア活動を継続した。

→オリンピック、パラリンピック開会式に向けた活動に応募した。（演劇チーム）

→サーカスイベントに向けて応募し、活動に取り組んだ。（演劇チーム）

・第2の人生を充実させた仕事への取組み

定年を迎えた社員に対して本人の負担にならないよう、仕事の内容や環境を  
構築させていく

生活 グループホーム、一人暮らし、結婚など、普通の生活を実現（基本理念）

自立への支援として、短期入所利用やガイドヘルパー利用を段階的に行っていく

→初めて短期入所に宿泊した方や、夕食利用をした方がいた。

余暇 自分の意思で、自分の時間を自由に過ごせる環境を実現（基本理念）

個々の余暇を充実してもらうため、個別面談の際に本人のやりたいことを聞いて

それを計画、実施していく

○ 主的・主体的・社会参加に向けた取組

自治会活動

自治会活動への取組み 第1かたるべ社内での自治会役割を充実させる  
→ナチュラルファーストの活動に参加する支援をした。(会議や講演等)

対外的な活動

ピープルファースト活動の支援

社員個々が参加する演劇やバンジョークラブなどの活動を支援する

社員一人ひとりが体験できる社会参加に向け取り組んでいく

→定期的にピープルファースト活動へ参加、全国大会へ参加を支援した。

○ 健康に関する取り組み

・健康的な食事

健康を意識した食事の提案を行うと共に、一人ひとりが健康維持できるよう支援していく

→お昼やお弁当内容を振り返り、新しいお弁当を検討した。

・健康的な運動

「踏み台昇降」を毎日行い適度な運動を継続していく

ウォーキングアプリなどを使って数値で見る健康意識を行っていく

・心の安定に関する取り組み

あそび本舗と連携して、リフレッシュ活動に積極的に参加していく

社員個々にあった心の安定や健康に関する意識の形を個別に取り入れていく

精神的な安定を図るために、個々の状況に応じた支援に取り組む

## 2019年度 第2かたるべ社 事業報告

○ 社員、入居者の人生を振り返り、将来展望を深める

- ・30周年事業を通じて社員・ご家族との信頼関係を深める
- ・社員・ご家族・職員などの信頼関係（相互理解）を意識し、個別支援面談などで積極的なコミュニケーションを図る
- ・社員、ご家族、職員で宿泊研修を行い、将来展望を深める

9月28日29日 30周年宿泊研修実施

○ 信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取り組み

- ①企業開拓時に職員だけではなく社員も同行し訪問する。  
 (有)四葉工業の打ち合わせに社員2名同行  
 ・・・・地域の清掃作業を合同で行う事となる。
- ②就労イメージが持てる様に企業で働いている先輩社員を実際に見に行く。  
 ⇒三和倉庫見学実習  
 12月20日、12月23日 (社員 計4名実施)
- ③清掃活動の際に信頼関係 (相互理解) や職域開拓を意識した取り組みの継続
- ④取引先企業との信頼関係 (相互理解) を深める動きを継続して行う。  
 4月1日 フィードフォワード(株)訪問
- ⑤PTA活動や自治会活動へ参加し信頼関係 (相互理解) を深める活動を継続する。  
 横浜市からの委託の配送作業で都筑区、緑区、港北区、青葉区の小学校94校に  
 5月14日～17日に直接学校へ運び相互理解を深める活動をした。  
 (PTA活動)  
 ・・・・1年間で合計31回の活動を行い、相互理解が深まり作業に結び付く  
 結果となった。
- ⑥ 30周年記念パーティーを行い、関係機関との信頼関係 (相互理解) を深める

○ 充実した社会生活に向けた取り組み

**【仕事】**

- ・受注作業
- ・相互理解を深める為の「講演活動」
  - 6月25日 関東学院大学講演活動参加 2, 3, 4年生 40名程
  - 11月 8日 國學院大學講演活動 3年生 50名程
  - 11月21日 関東学院大学講演活動 2, 3年生 120名程
  - 12月17日 國學院大学講演活動 1年生 140名程
- ・全社員の労働の保障を意識し、受注作業・販売・清掃を継続して行う
  - (清掃) ⇒サンケイエンジニアリング清掃作業 ・・・・合計7回
  - ⇒桜木町 (MM21地区清掃) ・・・・合計32回
  - ⇒緑区清掃 ・・・・合計28回
  - ⇒旭区清掃 ・・・・合計40回
  - ⇒青葉区清掃 ・・・・合計73回
  - ⇒建設課管理用地 (北部方面) 除草業務委託 ・・・・合計8回
  - ⇒横浜市立山内小学校エアコン・扇風機清掃 ・・・・合計3回
  - (販売) ・・・・合計19回
  - 神奈川県民ホールオープンシアター 茅ヶ崎中学校ふれあいまつり
  - 茅ヶ崎小学校お祭り 新栄ケアプラザお祭り 佐江戸三世代交流まつりなど

## 【開拓】

- ・職業にこだわらず興味のある場所を実際に見に行く事で選択肢を増やす。
  - ⇒ 特別養護老人ホーム しょうじゅの里 ボランティア・・・合計7回
  - ⇒ 緑区社会福祉協議会 ハーモニー ボランティア・・・合計13回
- ・新規の受注先を増やし、より多くの作業種に携わる機会を増やす。

新規訪問⇒ (有)四葉工業、(有)富士製作所、十日市場中学校、ライフ&シニア港北

- (株)キュアテックス、くまの農園、(有)美光技研、  
公益社団法人 横浜市ふるさと歴史財団、横浜市道路局建設部、  
横浜市立山内小学校、浜市教育委員会
- ・ラインスタンプの作成を仕事として取り組めないか検討する。  
アイパッドを購入し、LINE スタンプの素材となる絵を描き貯めている。  
また、LINEスタンプを収入にするための制度が変わったので、  
収入にできる形で模索していく。
- ・演劇活動の職域開拓としてエキストラ参加などを継続して行う。
- ・事業所間の配達作業を行い、既存の就労に結びつける動きをする。

## ○ 自主的・主体的・社会参加に向けた取組

- 工賃ミーティングの支援を行い、事業所全体での工賃意識を持つ。
  - ・・・工賃ミーティング 合計2回
- 旅行などの行事を企画段階から支援をする。
- ピープルファースト・ナチュラルファースト活動の支援をする。
  - 4月26日ナチュラルファースト 授産・GH会長の話し合い
  - 6月18日27日第2ナチュラルファースト 会長の話し合い
  - 6月17日関東学院大学講演活動打ち合わせ
  - 6月28日関東学院大学講演活動に参加
- ボランティアとして地域の清掃活動を検討。
- 演劇などの活動を通じて、パラリンピックなどへの間接的な参加を模索。
  - 1月7日 2020年パラ開閉会式のキャストをオーディションに応募
  - 2月11日 外部団体主催の公演の練習に参加
  - 2月17日 2020年パラ開閉会式のキャストオーディション  
マスクキャスト第一次審査を通過
  - 3月21日 2020年パラ開閉会式のキャスト第二次審査の電話面談参加

## ○ 健康に関する取り組み

- ① 健康的な食事 ○炊飯によるお米の提供
- ② 健康的な運動

- 朝のラジオ体操
- 運動不足傾向の社員に向け「運動支援プログラム」の検討
- ③ 心の安定に関する取り組み
  - オープンダイアログの実施
  - 状況に応じた「個別対応」の実施

## 授産施設 授産売上報告

○全体の売上に関して 別紙ー２

２０１９年度 ３,２９６万円 (２０１８年度 ３,００６万円)

総売上は２０１８年度に比べて約２９０万円、売上が増えました

○売上が増減の主な理由として

- ・ランチの売り上げが２２０万アップ  
ジャスミン 夢カフェ、ランチの売上が年間で１７７万円  
うれしの ランチ売上が６０万円アップ 昨年対比
- ・清掃作業で９４万円アップ 昨年対比  
旭区他公園清掃で８０万円増えた。継続箇所の公園では単価を上げて契約できた  
GH清掃活動で年間１８万円売上  
横浜市清掃業MM21地区関内清掃でも単価増で継続契約し２２万円アップ
- ・販売活動全体では１００万円以上のダウンとなった
- ・受注・出張作業で８５万円アップ
- ・配達等の売上が２３万円アップ (フィードフォアード・ぱど・リンク・星槎)  
第３ 星槎大学では配達作業として３８万円売上

※全体として

売上ベースで前年比から下回った月は二回(７月・３月)あったが、それ以外の１０か月間は

前年比を上回り、年間比では１０９％になり、年間売上も２９０万円アップした一昨年度の２０１７年度からみたら７００万円増えている。

今年度も２０１８年度の活動をベースに、より単価の良い作業・活動を選択し売上が上げられた。

販売活動全体では横ばい傾向だったがランチや新しい販売活動(お中元・お歳暮)などで売上を

増やす活動を模索した。

販売・ランチ・受注・清掃と一つ項目での売り上げだけではなく様々な活動の中で、それぞれが

売上アップに貢献した。

また年間取引箇所は法人全体で昨年度より5件増の61件になった。

## 2019年度 第3かたるべ社（居場所作り支援） 事業報告

- 社員、入居者の人生を振り返り、将来展望（支援計画）を深める。
  - ・30周年事業を通して本人、ご家族とのコミュニケーションを深め信頼関係を築く
  - ・それぞれの人生を深く振り返り将来展望を描く。→個別面談、インタビューシートの作成、宿泊研修等を通してコミュニケーションを深めた。
  
- 信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取組
  - ・近隣の清掃活動と地域の方たちへの挨拶運動を行う
    - 1～2週間に1回のペースで朝の人通りがある時間帯に清掃やチラシ配りをしながら地域の方たちへの挨拶運動を行った。
  - ・地域行事、リサイクル品の回収・販売、ゲームスペース等を通して地域との相互理解を深める
    - リサイクル品の回収は地域の高齢者からの依頼が多く回収、販売の両方で地域の方と関わる機会になった。ゲームスペースはもともと知っている子供の利用はあったが、地域の子供の利用には繋がらなかった。
  - ・アルコール依存、盗癖、放浪癖、引きこもりなどの傾向がある人を中心にミーティングを行う（必要に応じて囑託医の星野先生と連携する）
    - 週1～2回のペースで否定しないコミュニケーションを意識してミーティングを行い、精神的に安定できるように支援した。またミーティングでの話の流れで婚活パーティーへの参加や、その方が自分らしい姿でいられるよう支援した。
  - ・事業所内での感謝シートの実施（お互いのいい所を褒め合い感謝の気持ちを伝える）
    - 全社員にお互いのいい所を聞き取りし、感謝シートを作成し配布した。
  - ・地域で居場所がない方との関わり
    - 他法人の事業所を辞めさせられてしまった方、逮捕歴があり通所先を見つけることが困難だった方が実習をして新規受け入れに繋がった。他に入所施設利用中の方や精神科に入院中の方が実習をした。
  
- 充実した社会生活に向けた取組
  - ・就労に向けた活動
    - 1名の方が昆虫ショップで企業実習をした。



- ・出張作業  
→必要に応じて出張作業を行った。
- ・リサイクル品回収・販売  
→回収は日々の活動として主に地域の方々のご自宅に伺った。販売は日産スタジアム、海の公園でのフリーマーケットに定期的に出店した。
- ・ランチ作り  
→日々の活動としてほぼ毎日行なった。
- ・清掃活動（資源循環局、交通局委託業務）  
→センター南駅バスターミナル、関内地区清掃、グループホームの清掃活動、横浜市立山内小学校のエアコンと扇風機清掃に取り組んだ。
- ・メール便配達、情報誌ポスティング  
→ばど、フレバン等の情報誌のポスティングを定期的に行った。
- ・レンタルマット交換、洗浄  
→法人内の他事業所、近隣企業を対象に行った。
- ・ボランティア活動（小学校キッズクラブ、老人ホーム）  
→秋葉小学校の放課後キッズクラブ、高齢者施設の創生園青葉で定期的に行った。
- ・講演活動  
→明星大学、関東学院大学での講演活動を行った。
- ・子供を対象としたゲームスペースの提供  
→学校が長期休みの期間に数回利用があった。
- ・昆虫、メダカなど生き物の採取と販売  
→丹沢、泉区での採取と路上やイベントでの販売を定期的に行なった。飼育に関しては日々の活動として毎日行なった。
- ・庭の美化活動  
→関係者の自宅、国土交通省京浜港湾事務所、加賀原地域ケアプラザ、加賀原ケアプラザが関わっている高齢者の自宅、コンビニエンスストアの草むしりを行った。
- ・引きこもりがちな方に対する継続的な自宅訪問、外出のきっかけ作り  
→引きこもりがちな方の自宅訪問、生活リズムが整わない方の送迎対応を必要に応じて行なった。
- ・個々の状況に応じた居場所作り、コミュニケーション  
（勤務時間、活動内容など柔軟に対応）  
→必要に応じて柔軟に対応した。
- ・居場所作りから仕事に繋がるような関係作りと関わり方の工夫  
→ゲームや昆虫の活動を仕事にすることで居場所作りから仕事に繋がった。

○ 自主的・主体的・社会参加に向けた取組

- ・ナチュラルファースト（社員自治組織）の活動を支援する  
→ナチュラルファーストの会議や大学での講演活動を支援した。
- ・ピープルファーストの活動を支援する  
→ナチュラルファースト会長がピープルファーストに出席できるよう支援した。

○ 健康に関する取組

- ・健康的なランチ作り  
→日々の活動としてほぼ毎日行なった。
- ・スポーツを取り入れる  
→必要に応じて野球、サンドバッグ、エアロバイク等に取り組めるように支援した。  
余暇の活動として施設職員ソフトボール大会に社員と職員の混合チームで出場した。
- ・一人暮らしの方に健康面、衛生面の支援  
→近隣で1人暮らしをする3名の方を対象に必要なに応じて支援した。
- ・短期入所と連携した生活面の支援  
→自立や健康管理のために短期入所の利用が必要な方、1人暮らしの方や家庭環境により食事のみの支援が必要な方の夕飯利用を調整した。

## 2019年度 ジャスミン 事業報告

○ 仕事の充実に向けた取り組み

- ・ 商品開発、製造、販売 ブランドを登録する。  
→月餅は季節ごとに商品を開発した。ブランド登録向けの調査中。
- ・ 社会貢献も含めて清掃活動  
→都筑区役所から清掃業務は2019年度も継続しました

○ 施設外活動

- ・ 横浜市内の障害者でも利用できるインターシップ先を開発する。  
→準備が終わりました。新年度から横浜の都筑区からスタートする予定です
- ・ 就労に向けて施設外出張作業、実習を実施する。  
→2019年に清掃活動は施設外就労として認めてもらい、清掃は社員の働く実習先として体験していた
- ・ 一般就労向けの就職を支援する。  
→社員一名がとんかつマイセンに実習しましたが就職はできなかった。

○ 相互理解に向けた取り組み

- ・ ジャスミン内部で相互理解を深めるため、職員と社員が全員参加のオープンダイアログを実施する。→毎週金曜日の午後実施していた。
- ・ 社員、ご家族と職員が30周年の活動を通して、話し合いにより理解を深める。  
→社員の家族との相互理解が深くなった。
- ・ センター北駅を利用する人が大勢いる。駅での販売をし、駅の利用客と相互理解を深める。→週三、四回に販売していた。
- ・ みんなの夢カフェのプロジェクトに参加し、地域密着料理教室を開催する。  
→毎週金曜日に開催、チラシを配って、地域の人々を呼び込み、毎回の平均的な売上が8,000円になった。
- ・ 外部向けの無料の肉まん体験会を開催する。  
→養護学校の学生達と家族がよく利用した
- ・ メンバー全員参加の演劇活動を社会に向けて発信する。→2019年度の演劇作りが終わった。今回社員4名のお母さんが演劇用衣装を手作りしてくれた。職員とご家族の交流もできた。
- ・ 社員が主役の取材活動をし、ドキュメンタリーを作り、国内外で健常者と障害者の相互理解の架け橋を勤める。  
→かたるべ会の30周年の歩みのドキュメンタリー「夢への挑戦」を作った。

#### ○ 心身健康に関する活動

- ・ 音楽活動→演劇の中の音楽は社員のウクレレで演奏した。
- ・ 瞑想→毎日午後座禅していた
- ・ 太極拳→11月2日に港北区太極拳大会に参加した。
- ・ 森林浴→毎週木曜日実施した

## 2019年度 うれしの 事業報告

#### ○ 人生を振り返り、将来展望（支援計画）を深める

- ・ 社員およびご家族とのコミュニケーションを深める
- ・ 個別支援計画にて、社員の将来展望を深める  
⇒個別支援計画作成のタイミングで、ご家族のつらかった話をたっぷり時間をかけて聞くことをおこない、ご家族と職員の信頼関係の構築につとめたその話のなかから、様々な課題が浮かび上がった
- ・ 母親と父親の間での相互理解不足（かけちがい）
- ・ 父母の両親との間でのかけちがい
- ・ 友人に障害のある子供のことを相談できない

- ・地域に出て行くことができない（怖い）
- ・職場の同僚や上司に子供の障碍のことを話せない  
⇒虐待防止の考え方についての特別研修を職員全員が受講し、障碍ゆえの生きづらさや壁を、一つひとつ解消していくことの大切さを強く意識したうえで、あらためて個別支援計画の見直しをおこなった  
日々、真剣に一人ひとりと向き合うことを継続していく

○ 信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取組

川和町内会との信頼関係（相互理解）を深める

⇒夏祭りへの出店

- ・準備段階から会議に参加し、また当日の設営や翌日の解体などにも参加
- ・販売内容が競合することについて、会議メンバーより心配の声をかけてもらうなど、地域での存在感を増すことにつながった  
⇒夏祭りでの演奏活動
- ・昨年に引き続き、ステージでの演奏依頼を受け、バンジョークラブの演奏を実施する  
関係機関との信頼関係（相互理解）を深める  
⇒実習生受入
- ・前期後期、14名の実習をおこない、計7名の新入社員をむかえた  
⇒DOORプロジェクト協力
- ・「アート×福祉」をテーマにした東京芸術大学の社会人向け人材育成プログラム「DOORプロジェクト」に昨年に引き続き協力し、立場の違う社会人の見学・実習を受け入れ相互理解を深めた
- ・2月1日（土）東京芸術大学美術学部にて最終講評会がおこなわれ、受講生による成果発表がおこなわれた。うれしのチームからは、社員や職員の想いや活躍する姿を映像に収め、その映像にQRコードからアクセスするツールが発表された。  
⇒DOOR to DOORプロジェクト講演活動
- ・関東学院大学よりの紹介で、厚生労働省補助事業「DOOR to DOORプロジェクト」に協力し、対話型講座「当事者との対話 ダイバーシティ実践論」の初回講座として、社員Kさんの日頃の芸術活動や日中活動の様子を紹介し、当事者との対話の中で相互理解を深める活動をおこなった

○ 30周年記念事業の実施

⇒宿泊研修

- ・宿泊研修を実施し、相互理解を深めることを目的に、つらかった話をグループワークでたっぷりはなしあった  
⇒記念パーティー

- ・記念パーティーを実施し、家族・企業・地域社会との間にある、差別・偏見から相互理解へむけた活動の歩みを紹介した

○ 仕事の充実に向けた取組

- ・ 全社員が適材適所で参加できるよう支援する  
⇒職域開拓  
毛糸細工の工程を得意とする社員の適性を支援し、指人形や新商品を製品化した  
・ 感染予防のため品薄状態の続くマスクを自作し製品化をおこなう
- ・ 食品製造・・・ランチ、ピザ、クッキー、おからケーキ、おから茶、プリン、ぬかフリカケ、精米など  
⇒新商品開発  
季節ごとの商品開発や、作業工程の見直しから新商品の開発につなげた
- ・ 菓子梱包用品の作成および梱包作業  
⇒商品パッケージデザインを一新し、新商品の展開に対応した  
⇒商品タグの小型化と多色展開をおこなった
- ・ 食品販売活動・・・鴨居駅、ららぽーと、都筑スポーツセンター、保土ヶ谷スポーツセンター、センター南駅、榎日揮、その他イベント  
⇒相互理解を深める場として、継続的な販売に加え各種イベントに参加した  
⇒川和芸能文化祭出店  
川和小学校で毎年行われる地域の文化祭に販売活動として協力した。文化祭ステージでの盆踊りに、販売をおこなっていた社員が加わるなど、地域との相互理解を深める活動をおこなった
- ・ 受注作業・・・パド、フレバン、ヨガのポスティング  
⇒職域開拓としてポスティングを継続してきたが、職員体制の変化に対応するため、共同で取り組んできていた第3かたるべ社に移管した

○ 自主的・主体的・社会参加に向けた取組

- ・ ナチュラルファースト（自治組織）の活動を支援する  
⇒講演活動  
桜美林大学での講演活動に講師やアシスタントとして参加学生との相互理解に向けた取組を当事者主体でおこなった
- ・ ピープルファーストの活動を支援する
- ・ 各自が自主的に活躍できるよう支援する

○ 健康に関する取り組み

- ・ 栄養のバランスのとれた食事を毎日提供する

- ・ 栄養のバランスのとれた食事とお菓子のメニュー開発
- ・ 「かたるべ体操」など毎日実施
- ・ 毎日、瞑想（マインドフルネス）の実施
- ・ オープンダイアログを毎日実施
- ・ 心の安定に向け、音楽活動を週1回行う

## 2019年度 うれしの児童放課後等デイサービス 事業報告

- 児童・生徒の人生を振り返り、将来展望（支援計画）を深める
  - ・ 児童・生徒およびご家族との信頼関係を深める
    - ⇒個別面談
      - 個別支援計画作成やモニタリングで、ご家族との個別面談を行い、つらかった話、社会、学校に対してご家族が感じている困難さについて話を聞いた
  - ・ 個別支援計画にて、児童・生徒の将来展望を深める
    - ⇒将来グループホーム入居の実現に向けた提案をし、家族と本人が将来について意識することに繋がった。
  - ・ 適切な親子関係に向けた支援（親子の信頼関係を深める）
  - ・ 将来展望を見据えた見学と研修（日中活動施設、グループホーム、障害者雇用）
    - ⇒放デイ利用の高校3年生、3名の実習を授産にて実施
      - 本人及びご家族支援に放デイ職員も加わることで、より重層的な支援につなげた
      - ⇒グループホーム準備会に児童・生徒とご家族が参加し、将来展望にむけたイメージをもつことを支援した
  - ・ 将来展望を見据え、短期入所との連携
    - ⇒育児に困難さを感じているご家庭に、児童の精神的自立とご家族のレスパイトを目的とし短期入所を定期的に利用したところ、親子関係が安定した
- 信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取組
  - ・ 学校など、関係機関との信頼関係（相互理解）を深める
    - ⇒学校・保育園・CW]・児童相談所で話し合う機会を設け、家庭の様子など情報共有しながら、各機関の信頼関係を深めた
    - ⇒学校及び基幹相談支援センターを交えた個別支援会議を実施し本人の将来展望を話し合う場を設けた
    - ⇒長期休暇中や土曜日に、地域へ出かけることを積極的に実施
      - 地域との相互理解に向けた取組を行った

○ 「放課後等」の充実に向けた取組

個々の特性に応じた支援

- ・各プログラムに分かれて活動（運動、音楽、ゲーム、クッキング、個別対応など）
- ・各自の特性と興味に応じたプログラムを提供

社会適応支援

- ・各プログラムを複数名で行うことで、人間関係の大切さを育む  
⇒環境に馴染めず落ち着きのなかった児童が、好きな歌を流すと部屋に入り落ち着いた。他の児童たちも対象の児童を理解し、歌を流すことに賛同した。  
⇒オープンダイアログで児童を褒め合うことを実施したところ、落ち着いて活動に参加できるようになった児童がいた。
- ・プログラムを通してルールを守ることの大切さを育む

○ 自主的、主体的、社会参加に向けた取組

遊びなどを通し、自主性や主体性を育む

- ⇒季節の行事（七夕やハロウィンパーティー等）に部屋の飾りつけを児童・生徒とともにおこない、自分の作品で飾り付けられた部屋で楽しむ時間を支援した
- 役割分担を明確にし、各自が主体的に活躍できるよう支援する
- ⇒ランチの配膳下膳、玩具などの片付けができるよう支援を行ったところ、声掛けを促さなくても自主的に片づけを行う児童が増えた

○ 健康に関する取組

- ・栄養のバランスのとれたおやつを毎日提供する
- ・プログラムの中で、適度な運動を毎日行う
- ・心の安定に向け、オープンダイアログを毎日行う
- ・毎日「瞑想」（マインドフルネス）を実施

## 2019年度 共同生活援助 事業報告

### 【事業内容】

#### 共同生活援助

・各ホーム定員

主たる事業所 ハイツマモル 7ホーム 定員合計39名

グリーンハイツ6名 第2グリーンハイツ4名 アムール6名 ハイツマモル5名

アローズ6名、フレンズ6名、ビット（新ホーム）6名

主たる事業所 セルフィッシュ 6ホーム 定員合計32名

セルフイッシュ 5名 ビーンズ 6名 フォレスト 7名 第2ビーンズ 2名  
アポロ 6名、フラット 6名

主たる事業所 ジャスパー 3ホーム 定員合計 17名

ジャスパー 6名 マモルハウス 5名、スカイ 6名

3事業所 16ホーム 合計 88名

- 入居者の人生を振り返り、将来展望（支援計画）を深める。
  - (1) 個別支援面談で各自の人生を深く振り返る
  - (2) 「個別支援計画」と「援助内容申し合わせ事項」を深める
  - (3) 本人、ご家族、職員との信頼関係を深める
  - (4) 入居者、ご家族、職員で宿泊研修を行い、将来展望を深める

→本人、ご家族、関係職員で集まり、基礎調査資料の見直しや援助内容申し合わせ事項と支援計画を作成した。

→宿泊研修を行い、信頼関係を深めた。
  
- 信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取組
  - (1) 町内会、取引先、関係機関との信頼関係（相互理解）を深める
  - (2) 職員のお子さんが所属する地域の自治会、子供会、幼稚園の保護者会、PTAなど、様々な活動に積極的に関わり、相互理解を深める。
  - (3) 30周年記念パーティーを行い、関係機関との信頼関係（相互理解）を深める

→町内会、自治会の行事に積極的に参加し、相互理解を深めた。

→30周年記念パーティーではお世話になっている方々と信頼関係を深めた。
  
- 充実した社会生活に向けた取組
  - (1) 仕事
    - 全員「社会的労働」に向け活動（基本理念）
    - ・企業、授産と連携し、相談、生活面のサポートをしていく。

→充実した社会生活が送れるように、企業、授産と連携し生活面のサポートを行った。
  - (2) 生活
    - グループホーム、一人暮らし、結婚など、普通の生活を実現（基本理念）
    - ・グループホームは、地域の自治会活動に積極的に関わり、相互理解を深める
    - ・職員は、自宅の自治会活動に積極的に関わり相互理解を深める
    - ・障害がある無しに関わらず、相互に助け合える地域社会実現に向け活動

→各ホーム、積極的に近隣の清掃を行い、美化活動に取り組んだ。

→近隣の皆さんに挨拶回りを行い、かたるべ会のお歳暮セットを配布しました。

皆さん喜んでいただき、快く受け取っていただきました。



### (3) 余暇

自分の意思で、自分の時間を自由に過ごせる環境を実現（基本理念）

地域の中で、普通に利用できる余暇環境と人間関係を実現

- ・余暇のコーディネートを行う。
- ・社会資源の提示、ガイドヘルパー派遣の連絡調整を行う。

→余暇に関して、リフレッシュ出来るように社会資源の提示やガイドヘルパー等  
コーディネートを行った。

### ○ 自主的・主体的・社会参加に向けた取組

自治会活動

- ・自治会活動に積極的に参加する。

対外的な活動

- ・地域行事の積極的に参加する。
- ・ナチュラルファースト（自治組織）の活動を支援する。
- ・ピープルファーストの活動を支援する。

→地域のお祭りに参加し、材料の準備や会場の設営などを行い地域の皆さんと積極的に交流をしました。

→ピープルファースト、ナチュラルファーストの活動を支援した。

### ○ 健康に関する取り組み

健康的な食事

- ・栄養バランスのとれた食事をサポートする。
- ・職員は定期的に食品衛生責任者講習を受ける。

健康的な運動

- ・余暇の過ごし方を意識する。

心の安定に関する取り組み

- ・個別の相談をしっかりと聞けるように人ひとりの時間を大切にする。
- ・リラックス出来る環境作りを行う。

→健康的な食事を意識し、食品衛生講習を受け食事のサポートを行った。

→心の安定の取り組みとして、個別に向き合う時間を大切にした。

### ○ 緊急時の対応

- ・入居者の生命、安全を第一に考えた速やかな対応をとれるよう防災、避難訓練を定期的に行う。

→事務局会議にて嘔吐物処理方法やAEDの实地訓練をおこなった。

→事務局会議にて近隣の皆さんと一緒に消防訓練をおこなった。

- ・ GH 合同夜間避難訓練（6月）
- ・ 各ホーム地域の日程に合わせて防災訓練に参加
- 事務局会議にて行方不明時の実地訓練をおこなった
- ・ 実際にあった捜索時の事例の説明
- ・ チラシ作成を実践
- ・ まもるつくを使い実践

○ 一人暮らしへ移行した人への支援

- ・ 金銭管理方法、買い物、手続き、食事、健康面、近隣との関係等必要に応じた生活の援助を行う。
- 定期的に訪問し、健康、生活、仕事、余暇、金銭、手続き等、必要に応じ支援を行った。

○ 新ホーム

- ・ 都筑区東山田町に2020年3月オープン予定。
- ・ 準備会を行う。
- グループホーム見学を合わせて、合計6回の準備会を行った。(約100名の参加)
- 7月20日(土)に地鎮祭と近隣挨拶回りを行った。
- 今回のGH入居希望者(15名)対象にご本人、ご家族、関係職員で集まり個別面談を行った。
- 関係職員で集まり入居者検討会議を行った。
- 3月1日に開所し、6名が順次入居されました。

## 2019年度 移動支援 事業報告

○ 余暇などの充実に向けた取り組み

- ・ 移動支援にあたっては自主性及び主体性を尊重して、常に本人本位の支援をすることに努める。
- ・ 自立生活及び社会参加のための移動の支援を状況や環境に応じて適切に行う。  
活動時間と回数は別紙参照
- ・ 職員は地域との結びつきを意識し、横浜市、その他事業所及び福祉サービスを提供する者との連携に努める。
- 【相談支援事業所より車での通所支援についてお問い合わせがあったが、車でのサービスには対応していない旨と対応可能なサービスの説明をした】
- ・ ガイドヘルパー制度の利用方法や内容の情報を周知する。

- ・ 登録ヘルパーに関しては年1回の研修と必要時に職員が付き添いし、ヘルパーの質の向上を目指す。  
初回活動支援同行・・・3回  
ヘルパー研修・・・2月11日・14日・19日・22日・3月25日 全5回
- ・ 各関係機関が開催している研修や説明会へ積極的に参加し、移動支援事業を含む諸制度の状況把握に努める。
  - 6月11日 第1回都筑区居宅・移動支援部会
  - 10月24日 横浜市集団指導
  - 12月13日 第2回都筑区居宅・移動支援部会
- ・ 新規利用契約・・・6件

## 2019年度 生活本舗事業報告

### ○ バンジョークラブ

- ・ プロ演奏者講師により 第1、3火曜日はレッスンを行う。  
活動回数・・・21回
- ・ 横浜ジャグフェスティバルなど様々なイベントへの参加。
  - 4月13日 横浜ジャグバンドフェスティバル
  - 8月3日 川和町内会夏祭り盆踊り大会
  - 10月6日 2019バリアフリー with コンサート
  - 11月20日 北里大学東病院 精神神経疾患治療センター家族教室
- ※ゾウノハナ合唱部とコラボレーションし演奏やイベント出演を行う。
  - 12月7日 クリスマスコンサート@象の鼻テラスにゾウノハナ合唱団
  - 2月6日 緑養護学校で演奏会
- ・ 参加者は障碍の有無を問わず幅広く募集する。

### ○ あそび本舗

#### (1) 余暇活動の拡充に関する取り組み

- ・ 余暇情報の不足から、休日の選択肢不足に対しての情報提供を継続して行う。  
(相談受付など)
- ・ 余暇の選択肢を増やせる様に「移動支援」や「ガイドボランティア」等の制度利用に関する情報提供。
- ・ 地域の中で利用できる「サークル」や「教室」などの情報提供  
加賀原地域ケアプラザで開催されるイベントの情報を提供

#### (2) 交流・相互理解に向けた取り組み

- ・定期的な休日の第2分室開放（休日の居場所 コミュニケーションの場を提供）
  - 分室開放日・・・合計23回
- ・イベント開催（バーベキュー カラオケなど）
  - カラオケランチ・・・6月22日開催
- ・サークル活動の継続（フットサル ゲーム）
  - フットサル・・・合計8回
  - ゲームサークル・・・合計8回
- ・心身の健康を目的にした活動の模索（運動など）
  - 【健康活動・・・合計8回】

## 2019年度 短期入所事業報告

- 利用する人の将来展望（支援計画）に沿った支援を深める
  - （1）特に外部の方は個別面談で各自の人生を振り返る
  - （2）所属先の支援計画に沿った支援を深める
  - （3）本人、ご家族、職員との信頼関係を深める

**外部に所属がある人は、頻りに利用がないと個別面談を行える機会が少ない為  
今後は意識して行えるようにしていく**
- 信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取り組み
  - （1）法人外や児童の利用も多いので、関係各機関やご家族と関係性を深めていき、  
地域に対して必要な社会資源として相互理解を深めていく
  - （2）地域の防災訓練等に参加して近隣地域の方々に存在を知っていただく
    - 6月12日 グループホームと合同の夜間避難訓練を実施**
    - 11月17日 川和小学校防災拠点訓練に参加**
- 充実した社会生活に向けた取り組み
  - （1）ご家族の体調不良や緊急を要する案件など不測の事態への対応
    - ・不測の事態へ対応することで、日々の暮らしへの安心感を持ってもらう
  - （2）ご家族から離れた生活を経験する事による自立生活への足がかりの場
    - ・グループホーム入居や一人暮らしに向けた体験的な自立生活の取り組みを行う
  - （3）不安定な精神状態によって生じた反社会的行為により家庭やグループホームでの生活が困難になった場合の生活の立て直しを図る為に居場所を目的とした支援も行っていく
  - （4）複数の宿泊施設を利用する事で生活基盤が不安定にならないよう安定した短期

- 入所利用を心がけ、安心、安定した生活が送れるような社会資源の開拓を検討する
- ・長期入院退院後の社会復帰に向けた取り組みも検討する

ご家族の病気等で利用される人が複数名いた

引き続いて食事だけの利用をしている人が数名いる

短期利用のイメージがつきにくい人に対しては、何度かの食事利用だけを経て宿泊につながっている人がいる

○ 自主的・主体的・社会参加に向けた取り組み

- (1) 短期利用者の自己判断、自己決定、自己責任のもと自分で解決しかねる問題、助言が必要な状況、経験がないことにより自己判断しかねる事項等状況を考慮し、短期利用者にとって指導ではない適切な相談、援助を行う
- (2) 様々な事業所からの短期利用がある為、関係機関や社会資源の連絡調整を図り、生活基盤を作ることで主体的に社会参加が出来る様な支援を行う
- (3) 短期入所利用中の余暇の選択肢を増やしていく  
短期を利用している人の組み合わせ的に外出しての余暇支援は行えにくかったが、生活本舗での分室開放日に遊びに行く事が出来た時もあったので、タイミングが合えば余暇の活動も意識して取り組んでいく

○ 健康に関する取り組み

- (1) 通所先や家庭と健康状態の情報を共有する
- (2) 状況に応じて服薬援助する
- (3) 状況に応じて通院支援を行う
- (4) 栄養バランスのとれた食事を提供する  
日々継続的に実施

## 2019年度 相談支援事業報告

○ 計画相談を利用する人の人生を振り返り、支援計画を深める

- (1) 個別面談、モニタリングで各自の計画を振り返る
- (2) 所属する事業所で作成している支援計画と方向性を揃えて支援計画を深める
- (3) 本人、ご家族、職員との信頼関係を深める

個別支援計画との方向性を揃える取組を行ってから1年以上が経過したため、サービス等利用計画の更新がほぼ完了した事により方向性は揃えられてきている。

外部に所属している人はまだ合わせられていない方も多いので意識していく必要があった。

- 信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取組
  - （１）関係機関との信頼関係（相互理解）を深める
  - （２）地域の相談機関として誰でも相談出来るよう、地域と関係性を深める事に努める  
**緑区、都筑区、青葉区の自立支援協議会相談部会に出席している**
  
- 充実した社会生活に向けた取り組み
  - （１）支給決定時  
利用するサービス事業者等との連絡調整を行いながら情報の共有を図り、それぞれの事業所で作成する支援計画指針にずれのない総合的なサービス等利用計画書の作成を行う
  - （２）支給決定後  
所属する事業所と連絡調整、情報共有を行いながら計画の見直し（モニタリング）を行う
  - （３）社会資源の調整
    - ・計画作成のみでなく、その人のおかれた状況を考えて社会資源の調整を行っていく
    - ・地域にとって社会資源の創出が必要な場合には、地域の多様な機関とネットワーク構築を図る事を検討する  
**基幹相談と連携してGHを探し、何箇所かの見学に行っている**
  
- 自主的・主体的・社会参加に向けた取り組み
  - ・特に新規の場合、利用する人の意思に沿ったサービス利用や計画作成が出来る様に、情報提示の工夫や事業所の実習や体験利用を行うことで、主体的に計画が描けるような支援をする  
**外部や計画相談単独での新規受入はなかった**
  
- 健康に関する取り組み
  - ・所属事業所や家庭と健康状態の情報を共有する
  - ・福祉機関につながっていない人や一人暮らしで利用する人などは、日頃の健康に関する状況に留意して、必要によっては通院付き添い等を行う  
**日々継続的に実施**

## 2019年度 就労支援事業報告

- 社員、就労者の人生を振り返り、将来展望（支援計画）を深める

\*社員への対応

- ・各事業所、個別支援面談を通して、人生を深く振り返る。
- ・個別支援計画を深め、本人に合った働き方を考えていく。

\*就労者への対応

- ・個別支援面談を通して、人生を深く振り返る（基礎調査資料の作成）
- ・本人、ご家族と信頼関係を深め、将来展望を描いていく

→一人ひとりの人生を振り返るために、就労者のご家族と面談を実施した。

（ご家族の状況により、実施できなかった方もいる）

○ 信頼関係（相互理解）の持てる社会に向けた取り組み

\*社員、就労者への対応

- ・就労者の会やイベント等、お互いの交流をする場をつくる。
- ・会社イベント（懇親会やクリスマスパーティー等）に参加できるように支援する。

→会社イベントに参加するために、付き添い支援をした。

\*企業との関わり

- ・関わりのある企業へカルチャーチェンジ（肯定される文化）を伝える。
- ・企業の雇用担当者にかたるべ訪問を提案する。
- ・かたるべ会の行事（入社式、交流会等）のご案内をする。
- ・障碍という言葉を使わずに、個性を尊重した表現で本人の状況を伝える。

→入社式、交流会、記念パーティーのご案内をした。

○ 充実した社会生活に向けた取り組み

\*社員への対応

- ・本人の希望や意思を尊重して、興味ある仕事へ積極的にチャレンジできる支援をする。
- ・強みに注目し、ジョブマッチングを考えた就労支援をする。
- ・職場見学、体験実習、ボランティア活動にも積極的に取り組める環境をつくる。
- ・モチベーションを高めるため、かたるべ会OBOGが就労している企業を訪問する。

→職場見学、体験実習、ボランティア活動に継続的に実施した。

（保育園、小学校、高齢者施設、社会福祉協議会等）

→OBOGが働いている企業へ職場見学をした。

\*新規開拓、企業との関わり

- ・求人情報に対して見学等をし、積極的にチャレンジする。
- ・既存の求人につまみならず、新しい仕事を生み出していく。
- ・企業内での職域開拓をし、仕事の可能性を拡げる。
- ・セミナーや様々なネットワークを活用し、情報交換・情報収集する。

→企業からご連絡をいただくこともあり、積極的に見学・応募をした。

→就労ではなく、出張先企業として繋がった仕事もあった。

\*就労者への対応

- ・就労期間に関わらず、アフターフォローをする。(職場訪問、個別対応、ご家族対応)
- ・職場訪問、また職場以外で気軽に話せる環境を作る。(電話やメールを含む)
- ・本人の状況に応じて、転職支援・生活支援をする。

→会社都合により退職した方へ、転職支援をした。

→一人ひとり状況に応じて、職場訪問や個別連絡を継続して行った。

○ 自主的・主体的・社会参加に向けた取り組み

- ・就労者の会を当事者中心に企画する。(年3回)

→就労者の会を6月と1月に実施した。15名～20名の方が参加した。

- ・就労者へかたるべ会のイベントや余暇情報を伝える。(月1回)

→毎月、余暇情報等を伝え、分室開放日やフットサル等へ参加している方もいた。

○ 健康に関する取り組み

\*就労者への対応

- ・健康診断の結果等、必要に応じて対応する。

・2019年度の就職状況

(社福) 昴 ハートフルガーデン川和ー1名、フィードフォワード(株)ー1名、  
ジュノー(株)ー1名、工藤建設(株)ー1名、(株)成城石井ー1名

合計 5名

・2019年度の退職状況

(株)ジャステムー1名、ケアパートナー(株)ー1名、(株)ブラザーオートサービスー1名、  
(株)トレジャーファクトリーー1名、JB アドバンスト・テクノロジー(株)ー1名

合計 5名

## 2019年度 相互理解・交流 事業報告

○ 信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取り組み

- ・カルチャーチェンジ指針を通して、お互い認め合い肯定する文化を伝える。
  - ・かたるべ会主催の交流会を実施し、外部との相互理解を促進する。(年2～3回)
- 2019年7月5日(金)第53回 交流会 場所:うれしの 参加人数:81名  
テーマ『相互理解～ご家族との面談から考える信頼関係～』

- ・販売、演劇、講演、音楽活動等を通して、積極的に地域や社会と相互理解を深める。



- 駅前販売や学校、ららぽーと販売等を各事業所で実施した。
- 講演活動をするために、大学等に機会をいただいた。
- NPO法人スローレーベルと連携して、一緒に活動に取り組んだ。
- ・ピープルファーストやてつなぎつづき、神奈川県知的障害施設団体連合会に関わり、他法人との連携、相互理解を深める。
  - ピープルファーストやてつなぎつづき、神奈川県知的障害施設団体連合会に関わり、他法人と連携し、活動に参加をした。
- ・30周年「記念パーティー」を開催し、地域社会や関係機関との相互理解を感じ、信頼関係を深めていく。

◎かたるべ会30周年「記念パーティー」

日時：2019年11月3日（日）

場所：横浜ベイホテル東急

対象：社員、入居者、OBOG、ご家族、職員

評議員、地域の方々、行政、学校、企業、関係機関

内容：「地域や関係機関の方々に感謝し、相互理解へむけた活動を共有する」

「地域社会との相互理解を感じ、信頼関係で結ばれた社会を目指す」

- 当日は463名（ご来賓70名含む）の方が参加した。
- かたるべ会の活動を伝え、相互理解を感じ、将来展望を描く場となった。
- バンジョークラブや演劇も、プロのアーティストと共演をした。
- プロの方からのアドバイスをいただきながら、かたるべ会の30周年を振り返ったドキュメンタリー映画を製作し、上映した。

○自主的・主体的・社会参加に向けた取り組み

- ・自主性・主体性を尊重し、ピープルファーストの活動を支援する。
  - 定期的に活動への参加を支援し（定例会、追悼集会、職員面談、県庁同行等）、11月には大阪で開催される全国大会への参加を支援した。
- ・各事業所の自治組織（ナチュラルファースト）を活かし、様々な活動に繋げる。
  - 会議や講演活動等への活動を支援した。
  - 日中事業所とグループホームの組織を統合し、体制を新しくした。
- ・町内会、取引先、関係機関との信頼関係（相互理解）を深める。
- ・職員のお子さんが所属する地域の自治会、子供会、幼稚園の保護者会、PTAなど、様々な活動に積極的に関わり、相互理解を深める。

## 2019年度 職員研修事業報告

### ○ 「支援」の充実に向けた取り組み

#### \* 新人職員対象

- ・採用後1ヶ月、新人職員研修で下記項目を実施する。

基本理念、支援に当たっての留意事項、カルチャーチェンジ指針、  
愛に気付くコミュニケーション、内観、障害者虐待防止法、差別解消法

#### →12月14日(土) 新人職員8名

- ・採用後1~2ヶ月、各事業所で所属長・エリアマネージャーにより実施する。

法人規約・規定、法人ガイドライン、リスクマネジメント

(企画提案制度、服薬管理マニュアル、行方不明時対応、災害時行動)

GRIDYの使い方、スカイプ・LINEの使い方、障害の基礎知識、福祉施策

初任者研修(ウイリング横浜主催 3日間)、てんかん基礎講座(2日間)

#### →新人研修参加(外部)・・・7名 てんかん研修・・・9名

- ・採用後3ヶ月、事業所訪問

授産施設、グループホーム全ての法人内施設を訪問する。(2日間)

#### →実施できていなかったもので、次年度に日程調整をする。

- ・採用後随時、安全運転講習(授産職員対象)

個別に実技講習を実施し、必要に応じて再実施し、安全運転を意識していく。

#### →新人職員・・・4名、実施した。

#### \* 全職員対象

- ・職員全体研修(年2回)、各事業所(随時)

法人基本理念の認識、障害者への仕事・生活・余暇の支援をしていく上で、職員間コミュニケーションを深め、信頼関係を築き、支援の質を高め、一人ひとりが大切な人たちであり、必要とされていると実感できる研修を行う。

#### →2019年12月14日(土) 場所：うれしの 参加人数：約84名

テーマ： かたるべ会 30年の振り返り

(平野理事長と丹野副理事長による、かたるべ会の振り返りの話)

午前：新人職員研修 午後：職員全体研修、懇親会

- ・救命講習(各事業所、各エリアで実施)

成人に対する心肺蘇生とAEDの使用方法を主体とした3時間の講習(消防署で実施)

#### →グループホーム(5月に実施)、第1かたるべ社・第2かたるべ社(6月に実施)

ジャスミン、第3かたるべ社・うれしの(2月に実施)

### ○ 信頼関係(相互理解)の持てる社会に向けた取り組み

- ・感謝シートにより、認め合い・高め合い・一体感を感じ、相互理解を深める(年2回)

- ・ジョブランク面談により、職員間コミュニケーションを深める
- ・30周年「宿泊研修」を行い、社員、入居者、OBOG、ご家族、職員のコミュニケーションを通して、相互理解をし、信頼関係を深め、将来展望を描いていく。

◎かたるべ会30周年「宿泊研修」◎

日時：2019年9月28日(土)～29日(日)

場所：勝浦ホテル三日月

対象：社員、入居者、OBOG、ご家族、職員

内容：「昔の大変だった話(差別・偏見)や楽しかった話をたっぷり話し合う」  
「一緒に将来展望を描く」

→事前にご家族と面談をし、昔の大変だった話や楽しかった話を通したことにより、新たな気付きと信頼関係を深めるきっかけとなった。

→宿泊研修には314名が参加。

→昔の大変だった話(差別・偏見)や楽しかった話をテーマに、ご家族とグループワークをした。世代を超えて、共通な話題もあり、ご家族同士で大変盛り上がった。

また、家族間のコミュニケーションの必要性を感じ、特に父親のコミュニケーション、父親の参加が少なかったこともあり、後援会が父親の会を発足することになった。

地域社会で支え合うことはもちろん、

家庭内で支え合うことの大切さに改めて気付いた。

○ 自主的・主体的・社会参加に向けた取り組み

- ・企画提案制度による、自主的・積極的な研修、自治会参加
- ・その他、職務に応じた研修(食品衛生責任者講習、グループホーム連絡会等)

→企画提案制度による自主的な研修、各事業所による積極的な自治会参加をした。

→職務に応じた研修へも各自が参加をした。

○ 健康に関する取り組み

- ・内科、精神科の嘱託医から学ぶ研修

## 2019年度 健康管理 事業報告

○ 健康診断

- ・第1、第2、第3かたるべ社・ジャスミン・うれしの社員——年2回  
6月に今年度前期の健康診断実施(看護師による法人内健診)  
社員、GH職員、短期入所職員
- ・GH入居者——年1回(各職場で対応)

- ・ 職員 授産・移動支援・相談支援職員—— 年1回
- ・ GH・短期入所職員—— 年2回（労働安全衛生規則による）
- ・ GHアルバイト・ガイドヘルパー職員・ドライバー職員  
（本人と相談の上実施する）
- ・ 40歳以上の社員・入居者・職員に人間ドック  
（以後5年ごとに1度、人間ドックを受診する）
- ・ 40歳以上の女性社員・職員に婦人科健診

※健康診断

実施機関は東京中央クリニック 12月3日 16日  
サイクリニック 11月以降随時  
神奈川予防医学協会 12月以降随時（婦人科健診・人間ドック）

受信者は206名 社員120名、職員86名でした 別紙ー8

血圧、肝機能、脂質の結果に異常を認められる人が昨年より増えています。血圧は全体の12% 肝機能は18% 脂質は18%と前年より要経過観察以上の人が多い傾向です。BMI では、要経過観察の人が昨年は44% 今年46%で 毎年のことですが、肥満傾向にあるといえ、特に職員にその傾向が見られます  
また、視力の再検査が必要な人が22名おり、前年の倍以上になっており視力の低下が顕著に見られます。

○ 感染予防・衛生管理

- ・ 感染予防マニュアルに従い、衛生管理を徹底する
- ・ インフルエンザ予防接種の実施（職員・社員）  
※11月7日 サイクリニック（嘱託医）
- ・ インフルエンザ・ノロウイルス等の流行については、状況に応じて対応していく  
（感染拡大を防ぐため、事業所閉鎖もありうる）
- ・ 衛生管理の徹底——手洗い、うがいの励行、流行時マスクの着用  
授産 ——除菌ハンドソープ使用、次亜塩素酸ナトリウムによる除菌、  
ペーパータオルを使用 嘔吐物があった場合、処理セットを使う  
食材管理の徹底・調理時におけるアルコール消毒（職員及び社員）  
GH ——除菌ハンドソープ、ペーパータオル使用  
調理時におけるアルコール消毒（職員）  
嘔吐物があった場合、処理セットを使う
- ・ 衛生管理に関する職員研修  
授産——食品管理衛生責任者講習 必要に応じて受ける  
食品に関する研修に参加（食品表示法等）  
GH——食品管理衛生責任者講習 外部研修必須

感性予防のために内部研修（事務局会議にて）  
※新人職員等 食品管理衛生責任者講習を随時受講

- 生活習慣病予防等に関する相談
  - ・ 看護師による個別相談および通院付き添いを実施
  - ・ 嘱託医との個別相談  
星野先生の個別健康相談を毎月実施  
社員、ご家族、職員など個々多様な相談が行われました
- 健康に関する取組・各事業所との連携を図る
  - ・ 健康的な食事（昼食の献立等 栄養面を考える）
  - ・ 健康的な運動（日常の体操の習慣化、リフレッシュ活動）

## 2019年度 防火防災 事業報告

- 防災・避難訓練の実施
    - ◎社員・入居者・職員の自主的・主体的な行動を明確にする
      - ・ 授産施設は年2回（各事業所ごと）
        - 1 回目は地震時の防災避難と避難場所への経路確認 消火器使用訓練  
⇒6月 事業所ごとに実施
        - 2 回目は消防署員立会いの火災発生通報・消火器使用訓練  
水災害対象地域の事業所は水害を想定した避難訓練を実施（年1回）  
⇒7月 放課後等デイサービスうれしの実施  
⇒2月 事業所ごとに実施
      - 地域開催の防災訓練等の行事に随時参加する  
⇒11月 うれしの 川和町地区地域防災拠点訓練に参加
    - ・ GH各事業所
      - GH法人合同防災避難訓練 地震時の防災避難と避難場所への経路確認 年1回  
⇒6月 事業所ごとに夜間訓練を実施
      - 水災害対象地域のGHは水害を想定した避難訓練を実施（年1回）  
⇒10月 対象事業所で実施  
グリーンハイツ・アローズ・マモルハウス  
地域開催の防災・避難訓練への参加 随時
- 防火・防災設備の点検及び備蓄品の管理

- ・授産施設（各事業所）
  - 法人自主点検 年2回
  - ⇒8月 第1回防火自主点検実施
  - 消防署の立ち入り検査 要請に応じて随時
  - ⇒6月 第2かたるべ社
  - 消防法定設備点検 年2回 各所轄消防署に年1回は提出する
  - ジャスミン 工藤建設による消防設備点検実施 年2回
  - ⇒事業所ごとに実施
- ・GH（各事業所）
  - 法人自主点検 年2回
  - ⇒8月 第1回防火自主点検実施
  - 消防署の立ち入り検査 随時
  - ⇒各GHにて実施
  - 消防設備法定点検 年2回 各所轄消防署に年1回は提出する
- ・授産施設及びGHは備蓄品の期限チェック自主点検時に行い適正な物を常備する

○ その他

- ・災害時の対策マニュアル（職員用・ご家族用）の更新
  - 社員・入居者・ご家族・職員間の相互理解のもと、緊急時の連携を確認する
- ・防火管理責任者の設置・消防計画の作成及び提出
- ・横浜市主催の災害時連絡訓練参加（携帯メール使用）随時
- ・緊急時のAED使用研修を定期的実施する
  - ⇒5月 事務局会議にてGH事業所がAED使用研修実施
  - ⇒9月 第2かたるべ社AEDバッテリー交換
  - ⇒10月 うれしのAEDパッド交換
- ・ALSOK まもるっく・GH見守りサポートの使用、検索研修
  - ⇒9月 事務局会議にてGH事業所がまもるっく使用研修実施
- ・地域での防火防災に関して連携していく